



News Release No.1007002

2010年7月6日
株式会社 明電舎

東京電力様から10MW メガソーラー発電システムを一括受注

株式会社明電舎（取締役社長 稲村純三／以下、明電舎）は、このたび、東京電力株式会社様（取締役社長 清水正孝／以下、東京電力様）より、同社が山梨県甲府市に建設する米倉山[こめくらやま]太陽光発電所（仮称）向けに、発電出力10MWのメガソーラー発電システムを一括受注しました。

米倉山太陽光発電所（仮称）（以下、本発電所）は、東京電力様と山梨県様が共同で建設される発電所で、2012年の運用開始が予定されています。

本発電所の総容量は10MWで、年間では一般家庭約3,400世帯分の電力量に相当する約1,200万kWhを発電します。これによるCO₂排出量削減効果は、一般家庭約1,000世帯の年間排出量に相当する約5,100tが見込まれています。

明電舎は、このたび、本発電所の基本設計から施工、試運転までを含めたプロジェクト全体を一括受注しました。なお、太陽電池モジュールは昭和シェル石油株式会社の100%子会社であるソーラーフロンティア株式会社のCIS薄膜系太陽電池^{※1}を採用する予定です。

明電舎はこれまで、太陽光発電の分野において、庁舎や学校などの公共施設を中心に、多数の太陽光発電システムを納入してきました。また、数々の先進的な実証試験に参画することで、電力システムの安定化や需給制御までを含む、高度な電力変換・制御技術を蓄積してきました。この技術は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）様のメガソーラー実証研究^{※2}にも採用されています。

また、本年2月には、世界最高水準の変換効率を誇る太陽光発電用パワーコンディショナの新シリーズ“SPシリーズ”の販売を開始しました。本製品は、IEC規格^{※3}にも対応しており、海外における太陽光発電事業の拡大を目指す当社の戦略製品です。

明電舎では、国内外における太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーの拡大やエネルギー利用の効率化を基幹事業と位置づけ、本年6月には「スマートグリッド プロジェクト」を立ち上げるなど、その取り組みを強化しています。今後も積極的にエネルギー関連事業を展開することで地球温暖化防止に貢献していきます。

以上

※1 CIS とは主な3つの成分（銅 Copper、インジウム Indium、セレン Selenium）の頭文字で、結晶シリコン系太陽電池とは異なり、シリコンを使わないため、原料の供給不足の心配がなく、安定供給が可能です。幅広い光成分を吸収できることや影にも強いという優れた発電特性を持っています。

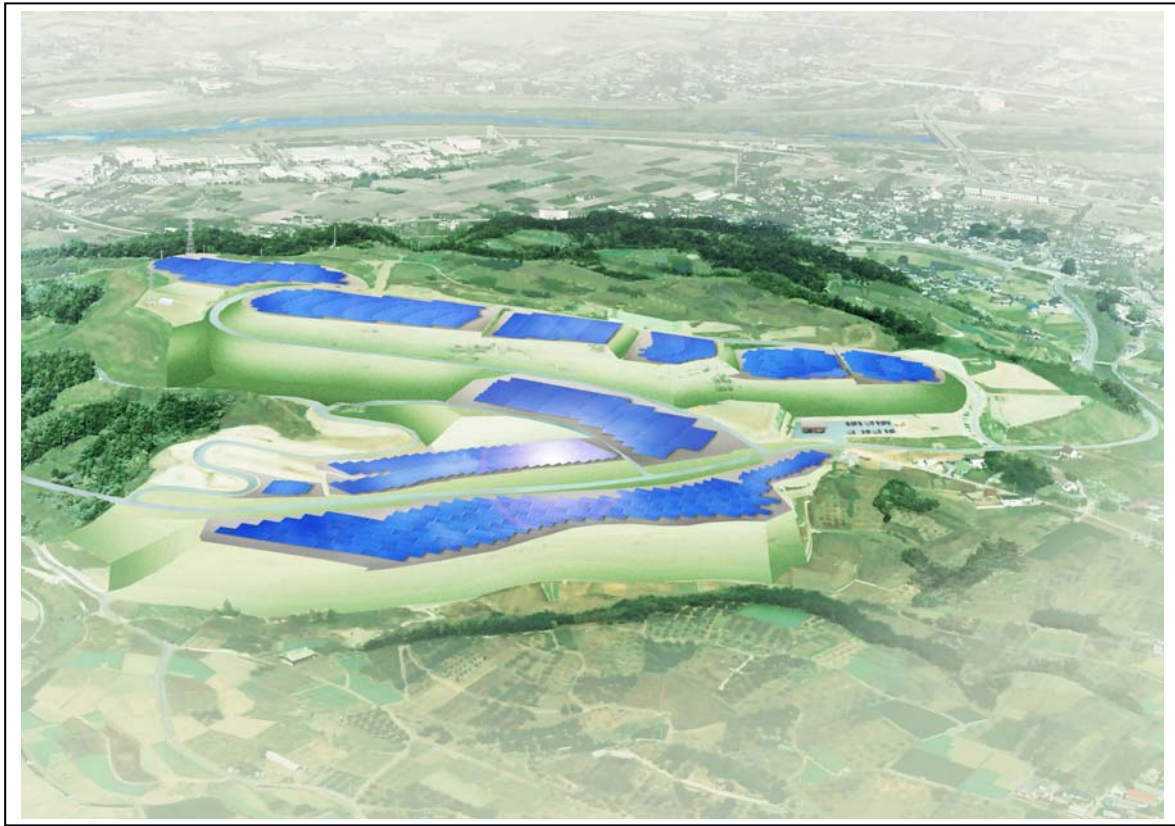
※2 北海道稚内市における「大規模電力供給用太陽光発電システム安定化等実証研究」。

現時点で国内最大級の約5MWの発電容量を有する太陽光発電所で、明電舎は、北海道電力株式会社様の再委託先として参画しています。

※3 電気・電子機器に関する国際標準規格で、欧州やアジア、中東等の標準規格となっています。

<米倉山太陽光発電所 完成イメージ>

提供：東京電力株式会社様



■本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 明電舎 広報・IR部 広報室 電話：03-6420-8100